

反射板・鉄塔点検時における熊対策について

日本海電業株式会社
神通川水系砂防事務所電気通信施設点検業務
(履行期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日)
管理技術者 近藤 武彦



1, 業務委託概要

本業務は、神通川水系砂防事務所管内に設置されている電気通信施設の点検を行うもので各設備の運用状況の把握と機能確保を目的とする。

また、障害が発生した場合は、迅速に対応し、障害の早期復旧に努める。

2, はじめに

近年、ツキノワグマの目撃や熊との遭遇による人身被害が数多く報道されています。平成22年9月15日現在、岐阜県内のツキノワグマ目撃件数は例年と比べて多く、339件となっている。(昨年は9月末までに196件)特に飛騨市や高山市など飛騨地域での目撃報告が多い傾向にあり、8月18日と9月2日には、熊による人身被害(2件とも高山市)も発生している。また、ツキノワグマの餌となるドングリなどの堅果類について昨年度と比較してもブナ、ミズナラ、コナラの着果は大幅に落ち込んでおり今後も餌を求めるツキノワグマの出没が予想される。

平成22年度のツキノワグマの出没状況について(本年度は9月15日報告分まで、昨年は確定値)

○月別集計(カッコ内は昨年度)

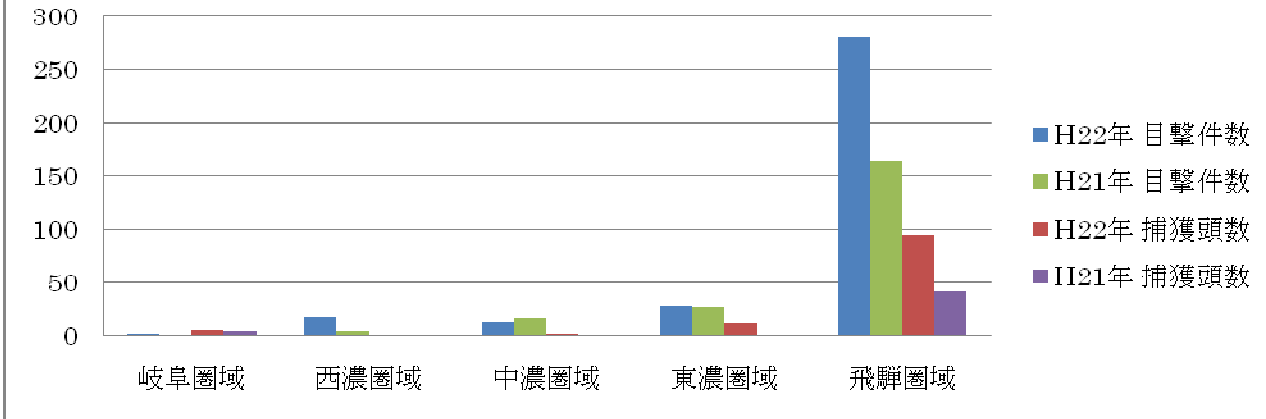
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月以降	合計
目撃件数	17 (17)	18 (18)	33 (59)	63 (37)	102 (45)	106 (20)	— (15)	339 (211)
捕獲頭数	2 (3)	4 (3)	7 (9)	21 (6)	45 (13)	32 (10)	— (1)	111 (45)

○圏域別集計(カッコ内は昨年度)

	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域
目撃件数	2 (0)	17 (4)	12 (16)	28 (27)	280 (164)
捕獲頭数	5 (4)	0 (0)	1 (0)	11 (0)	94 (41)

- ・9月15日までの報告数で昨年度比約60%増となり、出没が多い状況となっている。
- ・7月後半から目撃情報が急に増え、それに伴い7月以降捕獲頭数が増加している。
- ・飛騨圏域での目撃件数は前年度比約70%増と目立って増えている。

熊目撃・捕獲 圏域別集計



『資料：岐阜県地球環境課 清流の国ぎふづくり推進室より』

※本業務においては、飛騨地方の山間部を中心とした反射板・鉄塔の点検を実施しており、安全作業は勿論の事、熊に遭遇しない為の予防対策、遭遇した時の対処法が重要であると考えます。

3, 熊に遭遇しない為の予防対策

① 熊の生態や習性を理解する。

- ・熊が人を食べようとして人間を襲うことはごく稀で、ほとんどの場合は突然人間と鉢合わせになるか熊の警戒域に入り込みすぎた場合に威嚇として攻撃してくる。熊はたいへん臆病で、人間はとても怖い存在である。また、活動時間は朝夕の薄暗い時間帯に盛んに活動するが昼夜問わず活動する個体もいるので一概に行動パターンは明確にされていない。

② 人間の存在をアピールする。

- ・人間の存在を知らせることで、熊のほうがかけてくれる。とにかく熊に出会わないようにするのが最も重要と考える。悪天候時や藪の中、沢の近くではお互いの存在に気が付きにくい場合があるので、より注意する。
- ・必ず熊避け鈴やラジオ等の音の鳴るものを身につける。
- ・ホイッスルや笛を鳴らしながら現場へ向かう。



熊避け鈴



携帯ラジオ

- ・定期的に玩具ピストルを鳴らし、火薬のにおいや音で熊に人がいることを知らせる。
(必要に応じて爆竹を鳴らす。但し、山火事や火災の危険も伴うので周囲の様子を確認し、使用すること。)



玩具ピストル



爆竹

- ③ 辺りを十分注視しながら進み、見通しの範囲はもとより、その先の死角部分では特に歩調を遅くする。
- ④ ゴミをきちんと持ち帰る。熊は鼻がよく効くので、当然あるが弁当や飲み物の空き缶、ペットボトル等を散らかさない。餌となりうる残飯等の誘因物を残さない。
- ⑤ 熊の足跡やフンをした形跡、樹皮剥ぎ(クマ剥ぎ)等が確認された場合は作業を中止し、下山する。
- ⑥ 万が一遭遇した時の為に、鉈を携帯する。

4, 万が一熊に遭遇した場合の対処

- ① 遠くで熊を発見した場合(20m以上距離がある場合)
 - ・大騒ぎせずに落ち着いて静かにその場を立ち去る。種類や固体によっても差があるが熊の仲間には「逃げるものを追う習性」があるので絶対に走らない。
 - ・熊がこちらに気づいている場合は、静かに声をかけ人がいることを知らせる。
- ② 更に熊が接近してきた場合、至近距離で遭遇した場合(20m～十数mしかない場合)
 - ・至近距離でも、とにかく刺激を与えない事。
 - ・ゆっくりと近づいてくる場合は、こちらもゆっくり後退する。(背中とは絶対に向けない。視線をそらさずに、睨みつけながら後退する。)
- ③ 熊が突進してきた場合又は襲われた場合
 - ・熊は平均時速50kmで走り襲いかかるといわれている。熊避けスプレーを使用し、熊の攻撃を怯ませる。
 - ・熊に襲われた場合は、近くにある枝や、鉈を振り回す。とにかく抵抗する。抵抗できない場合は体を丸めて地面に伏せ、両手を首の後ろに組んで後頭部から頸部、顔面や腹部を守る。(熊による攻撃で致命傷となっているのは後頭部から頸部に集中している為。)
 - ・熊の攻撃は1分以内といわれており、その間を耐え熊が攻撃を止めるのを待つ。(近くに大きな岩や倒木がある場合はそれを利用して身を隠し熊が去るのを待つ。)

5, 状況写真



KY ミーティング



熊避けスプレー

【熊避けスプレーの使用方法】

- 1 安全クリップを外し、ガス発射口を攻撃してくる動物の顔に向け発射レバーを押す。ガスの飛距離は6mから8m、但し風向きにより変わる。
 - 2 発射持続時間は5秒から7秒、ガスがなくなるまで、数回に分けて発射する。
 - 3 使用後は安全クリップを必ず、発射レバーの下に差込み保管する。(外したままで保管しない。)
 - 4 使用するとき缶は発射レバーを上にして使用し、缶を横にしたり、逆さにしての使用は絶対しない。
 - 5 夏季等の、高温になる車の中、直射日光のあたる場所に保管しない。
摂氏40℃を超える場所、及び氷点下以下になる場所に保管しない。
- ※熊避けスプレー：主に赤トウガラシのカプサイシンから成分を抽出したもので天然成分であり、化学物質を含まない。主に警察機関などで催涙ガス弾に使用されている。



熊避けスプレー携帯状況



熊避けスプレー実演状況

6, まとめ

鉄塔及び反射板点検時においては山間部での行動が中心となる。出没情報等の有無にかかわらず、熊の生息域へ立ち入る事になるので、熊と遭遇する割合も高くなると考えられる。熊の習性や、熊に対する意識や予防対策、万が一に備えた対策を十分にとり今後の安全な作業を実施していきたいと考える。